

# JAITI 66

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

◆URL <http://www.jaiti.org/> ◆E-MAIL [jaiti@janis.or.jp](mailto:jaiti@janis.or.jp)

JAITIとは、「公益財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発行 公益財団法人 日本農業研修場協力団  
事務所 〒386-0502 長野県上田市武石沖605-5  
TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

## 今日のジャイチ

誰もが明るい年となることを願った新年は、能登半島地震、航空機事故と受難の幕開けとなってしまうました。

折しも、コロナ禍からようやく抜け出して久しぶりに家族揃っての正月を迎えていた矢先のこと、余りにも酷さを感じえません。

尊い命を奪われた皆様、ご家族、被災されました方々に心から哀悼とお見舞いを申し上げます。また、厳寒と積雪の中で災害の復旧にご尽力されている皆様

敬意を表します。

災害は何時どこで起きるか分からないと言われるのが、4年ぶりとなるジャイチツアーでネパール国カトマンズに滞在していた昨秋の11月3日の深夜のこと、ネパール西部で大きな地震があり157人が死亡、けが人も多く出たようです。

カトマンズからは約300キロ離れた地域だったので揺れを感じた者は少なく、地震の話題も広がっていないように感じました。

M7.8の大地震が襲った



4年ぶりとなるJAITIツアーでは、ネパール子どもたちと触れ合いの時間を持とうと新聞紙でカブトの折り紙に挑戦しました。女性参加者の優しい手ほどきで全員が見事に折り上げてくれました。(カウレデビ・カカニ・ブライター学校の5年生の教室にて)

2015年から8年が経過し、人々の暮らしも平常に戻ってきてはいるようですが、ネパールでは、地震が頻発するものの、耐震性の低い家屋が多く、当時、使用危険として政府が赤紙を張った建造物などが、未だに使わざるをえないものも散見します。

寮が、部屋の入り口の寸法と今までのベッド幅が合わず搬入ができず、使用されないでいたことから、この問題の解消のためジャイチからの支援金により14台の鉄骨製二段ベッドを搬入することができ、学生たちの入所が始まっています。

このように自立と公立化によつてのメリットが見られるようになってきました。

◆公立学校に移管したカカニ・ブライター学校、レカリ・バシファント学校は共に学校職員やPTA、学校運営委員会などの積極的な取組が進められており、村や州教育事務所と良好な関係を保ちながら、様々な教育施設の整備に努めています。



▶部屋6人が使用できる二段ベッドの搬入が終わり、ようやく寮生活が始まりました。

カカニ・ブライター学校では、国連WFPの支援によつて給食調理施設の建設が行われ、生徒たちへの給食が始められました。(2頁参照)

### 学校の皆さんから感謝状

一時は生徒数の減少が心配された当学校ですが、こうした取組の積み重ねにより保護者からの理解もあつて、現在356人の子どもたちが入学し、勉学に励んでいます。

レカリ・バシファント学校では、在ネパール日本大使館の支援により建設された学生寮が、部屋の入り口の寸法と今までのベッド幅が合わず搬入ができず、使用されないでいたことから、この問題の解消のためジャイチからの支援金により14台の鉄骨製二段ベッドを搬入することができ、学生たちの入所が始まっています。

レカリ・バシファント学校では、在ネパール日本大使館の支援により建設された学生寮が、部屋の入り口の寸法と今までのベッド幅が合わず搬入ができず、使用されないでいたことから、この問題の解消のためジャイチからの支援金により14台の鉄骨製二段ベッドを搬入することができ、学生たちの入所が始まっています。

レカリ・バシファント学校では、在ネパール日本大使館の支援により建設された学生寮が、部屋の入り口の寸法と今までのベッド幅が合わず搬入ができず、使用されないでいたことから、この問題の解消のためジャイチからの支援金により14台の鉄骨製二段ベッドを搬入することができ、学生たちの入所が始まっています。

職員、生徒たちをはじめ学校関係者の皆さんが総出で歓迎行事が催され、その席で感謝状の贈呈が行われました。

私たちは JAITI オフィスにこの場を借りて感謝の意を表したいと思います。JAITI はこの学校の母体機関として献身しており、最高水準を永遠に維持するというゆるぎない精神とともに、当校の完成に向けて日本の支援者や寄附者との連携も良好で称賛に値します。私たちは、この学校の子どもたちの未来を明るくするために非常に貴重な奉仕を捧げてくださった JAITI とすべての支援者に心から感謝したいと思います。私たち学校家族は本当に感謝しており、JAITIを常に心に留めています。私たちは日本とネパールの人々の間の友好的な関係を強化するための貢献を永遠に願っています。

▶レカリ・バシファント学校長と学校運営委員会会長から贈られた感謝状 右は要約文











## カカニ農場が観光農園として一歩前進

カカニ実験農場の有効活用として、地元事業団体によって観光農園を目的とした整備が進められていますが、農場内の栽培実証に合わせて、宿泊部屋、食事処や野外テラスなどが出来上がってきました。

規模的には、2人程度が利用できるゲストハウス並の施設ですが、ここカカニはカトマンズから約250メートルの距離にあつて、朝日のナガルコット、夕日のカカニとも言われている場所で、ガネツシュ、ドルチェエラクパなどのヒマラヤ山脈の眺望を楽しみながら静かな時間を過ごせることができます。



▶リニューアル工事が進む農場内施設「ネパールの南部(温暖地)の人たちの観光受入れを増やしたい」と意欲的なオーナー

を過ごすことができるのではないかと思います。

また、農場の機能として、隣接するカカニ・ブライトー学校で始められた給食材料の供給や農業教育の場として活用されることも期待したいものです。



▶ヒマラヤを望める野外テラスで爽やかな空気の中での昼食タイム 今回のツアーで

## 第24回ネパールの農場と学校訪問の旅予告

- ・日程 1月11日 泊8日
- ・費用 3万円程度
- ・最小催行 1名0
- ・主催 (株)西遊旅行
- ・企画 ジャイチ事務局

詳細は次号でお知らせしますが、お問い合わせはジャイチ事務局までお願いします。

## 国際交流フェスティバル イン丸子に参加

昨年7月に上田市丸子文化会館で国際交流フェスティバルが開催されました。

今回は、ワールドキャンパスインターナショナル(WCI)の受入れとして、世界各国の上から集まった日本に興味関心のある若者たちが、日本各地の都市をホームステイしながら、地域で文化交流活動を行う事業と併せて実施されたもので、ジャイチの出展ブースを訪れた若者の中には、「親がネパール出身なのでとても興味があります」と話してくれた者もあり、当地域では接する機会が少ない外国の皆さんとの交流の場となりました。

- 7月 ・機関紙65号発送
- ・国際交流フェスティバルin Marukoに参加
- 8月 ・第23回JAITIツアー参加者募集開始
- 11月 ・JAITIツアー実施
- 12月 ・理事会 令和5年度上半期業務執行状況の報告
- ・機関紙66号企画・編集

- 7月 ・政府機関から卒業試験の結果公表
- ・土地所有権移転事務
- 8月 ・学校夏休み
- 9月 ・両学校へ訪問指導
- ・10月末まで秋祭りのため休校
- ・国民教育の日式典に参加
- 10月 ・JAITIツアーの準備と段取り
- 11月 ・JAITIツアーの受入れ、案内
- 12月 ・バシファント校で学力向上の指導

## 物故者のお知らせ

カミ・ツェリン・シエルバ様  
ネパール・カカニ在住  
一三年一〇月

ジャイチの発足当初から事業に関わり、特に実験研修農場の整備にご尽力いただきました。また、カカニ訪問の際には滞在を快く引き受け、家族同様の交流を続けていただきました。

ご冥福をお祈りいたしますとともに、これまでのご支援に感謝申し上げます。

## 書き損じハガキを送って下さい。未使用も歓迎

年賀ハガキの書き損じ・余りなど...

(古いものでもかまいません)

(切手に交換し、通信費に役立たせていただきます。)

使用済切手も集めています。未使用も歓迎

(切手の周りを5ミリほど残してください)

## 編集後記

最近、時の流れるのが速いと感じます。「老人は1日は長いが1年は短い、若者は1日は短いが1年は長い」と表現した著名人もいたようですが、私も老人の域に達したのでしょうか。

特に、昨年は暑い暑いから一気に冬に突入の陽気となり、秋はどこへといった季節感のなさがそう感じさせているのかもしれない。四季があつてこそ日本の魅力。その魅力を楽しみながら1日1日を大切に過ごしたいものです。

## お知らせ

長年事務局に勤務いただいた豊田かずいさんが病氣療養のため昨年6月退職されました。一日も早く治癒されますよう祈念しています。

▶在りし日のカミ・ツェリンさん(左隣は土屋興亜農業指導員とK.C氏



▶各国の若者が参加しての国際交流フェスティバル丸子